

学校だより

令和5年度 第7号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和5年9月29日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 共に学んだ成果をより実りのある秋へ！

校長 藤田 忠久

8月30日の夏休み明けに合わせ、岐阜聖徳学園大学の学生3人が岐阜小学校に教育実習にやってきました。9月26日までの4週間、3年1組に外国語学科、4年2組に学校心理専修（体育専攻）、5年1組に国語専修の学生がそれぞれ所属し、教員になるための実地演習を行ったのです。岐阜小学校では、教育実習生の指導教員となった学級担任に任せっぱなしにすることなく、道徳を含めた全ての教科の授業を、ほぼ全員と言える教員が分担して示範授業として提供しました。小学校教員になるための実習期間として、現場の先生の授業を見て学ぶことも大切にしました。きっと、多くのことを学びとってくれたことと思います。



教育実習生の受けもつ授業では、どの学級・学年の子たちも、教生の先生の緊張感を少しでも和らげようと努め、特に、3人がそれぞれに公開した研究授業では、一緒に遊んだり学んだりしてくれたことへの感謝を、授業に臨む姿で示そうと一生懸命取り組んでいました。3年1組の英語では、教生の先生が準備した教具を使って、子どもたちはその熱意に報いようと集中して話を聞いたり、挙手発言をしようとしていたりしていました。4年生の体育では、子どもたちは仲間と励まし合ったり、タブレット端末を活用して動きを録画したりしながら、粘り強く練習に取り組んでいました。5年1組の国語でも、教生の先生を支え、頑張りに報いようとする子供たちの姿が輝いていました。

また、保護者ボランティアの皆さんにサポートしていただく学習活動の機会が、9月もたくさんありました。12日には、金華山を仰ぎ見て景色の美しさを感じ、清流「長良川」の心地よさを全身で味わう「長良川での体験活動」（魚捕りと川流れ）を、5年生が無事に行うことができました。22日は、3年生が路線バスでハートフルスクエアG「岐阜市平和資料室」に出かけ、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える校外学習に安心して行ってくることができました。6年生は12日と19日に家庭科「思いを形にして生活を豊かに」の学習で、「ミシンサポーター」のお母さん方のおかげで安全が確保され、トートバッグづくりを効率よく楽しむことができました。

岐阜小学校が重視する「リアルな体験」活動は、現場に行き直接学ぶ機会が必要だと考えていますが、安全・安心の確保のためには大人の見守りが必須で、そこに充てる職員が学校には足りていません。「引率ボランティア」の存在は、校外に出る学年だけでなく、学校に残る体制の安定にも繋がっています。高学年の家庭科の学習活動には、人手が足りずに各作業が行き詰まってしまうことが多く「ミシンサポーター」に来ていただけることは、作業効率が上がるだけでなく安全・安心を確保することになっています。都合の付くご家族にサポートをしていただける体制が定着すれば、本当に嬉しく誇らしいPTA活動の一つとなると考えています。コロナ禍にあっては、保護者の皆さん同士が繋がる機会が減ってしまいました。子どもたちのためのボランティア活動が、人的ネットワークを構築していただく機会になれば幸いに存じます。



学校だより

令和5年度 第6号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和5年8月30日

岐阜市大工町1番地

TEL 058-265-6388

## 夏休みにCS, PTAを含めた「地域や家庭の教育力」を実感！

校長 藤田 忠久

学校閉庁期間前の7月を中心に、9日間にわたって岐阜小コミュニティ・スクール「学び部」主催の「サマースクール」15講座が開催されました。「学び部」の企画・運営で、地域の方をはじめ岐阜かがみかはら航空宇宙博物館からも講師の先生を招かれ、学校の教育課程では取り組めないような素晴らしい学びの場が提供されました。今年度は、蕎麦打ち体験や鮎菓子作り等の飲食関係の講座も復活し、子どもの主体性や独創性を引き出す非認知能力を高める体験活動が提供されました。「学び部」(地域や保護者)の皆さんがサポートに回り、子供たちに喜びや楽しみを提供してくれている「サマースクール」は、岐阜小CSの大きな誇りとなっています。

8月7日には、昨年度に引き続き「湊コミュニティ水路での鮎掴み大会」が、岐阜小PTAの主催で実施されました。前日には保護者ボランティアによる清掃活動も行われ、学年ごとに鮎掴み体験を実現することができました。6年生は、7月にPTA学年協議会主催の「6年生キャンプ」で10km以上に及びゴムボートでの「長良川下り」を体験することができ、8月には「ふるさと学習」の一環として第1回「ぎふ長良川花火大会」を学校の屋上から観覧しながら平和の大切さや有り難さを学びました。

地域の行事や活動に目を向けると、金華地区では8月の「伊奈波盆踊り大会」は台風の影響で中止となったのですが、7月に正法寺「大佛フェスティバル」が行われ、白木町プールの開放等によって子供たちの活動の場が広がりました。京町地区ではメディアコスモス「カオカオ広場」での「ラジオ体操大会」と「夏祭り・盆踊り大会」が開催され、岐阜小児童もたくさん参加して活動を楽しんでいました。その他、岐阜歌舞伎保存会「地歌舞伎」公演や権現山での健幸早起き「山登り」なども行われました。子供たちのことを考え、地域が一体となって取り組む様子から多くのことを学んでくれたことと思います。「伝統と文化」を守り「地域活性化」に努める地域の大人の本気を目の当たりにし、ボランティアスタッフとして活躍する中学生に憧れをもちながら、岐阜小の子供たちも大いに楽しむことができていました。

昨日持ち込まれた「夏休みの宝物」を見たり、「スタディサプリ」の取組状況を確認したりすると、自分で決めた課題をはじめとした学習にも一生懸命取り組んだ子がたくさんいることが分かります。夏休みの期間にも、ご家庭の支えの中で力をつけ「一段と成長してくれた」と、大変嬉しく思います。今日から学校生活が再開します。まずは、子供たち一人一人が自分らしく、前期の締め括りをできるように、しっかり取り組んでいって欲しいと思います。



学校だより

令和5年度 第5号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和5年7月20日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 家族で「共創を楽しむ」夏休みに！

校長 藤田 忠久

今年度は、岐阜市の教育施策（事業）の一つとして「ぎふMIRAI's」が始まり、岐阜小学校はそのパイロット校となる自負心（気概）をもって、体験重視の「ふるさとと学習」を進めています。5年生は、7月13日（木）、14日（金）に、4年ぶりの宿泊研修となる「野外学習」で、その真骨頂となる（はずの）ゴムボートでの「長良川下り」（12km）による帰校を計画したのですが、残念ながら梅雨前線の活動が活発化した影響で長良川の水位が上がり、断念せざるを得ませんでした。しかし、

ファミリーパーク内大池「ゴムボート体験」や「クラフト（焼杉の小物入れ）」の活動に切り替えた5年生は、仲間と一緒に「自然の家の活動」を自ら楽しむことができていました。同じ館内で宿泊する幼稚園の子たちを意識して（気遣って）、大変静かな睡眠時



間を過ごすこともできました。これらは、まさに仲間と「共創を楽しむ」姿であったと思います。

一方で、今年度も「岐阜小学校の家庭学習」が、各種報道機関で紹介され続けています。朝日新聞デジタル、東海テレビ、フジテレビに続いて、テレビ放送とネット配信のTOKYO MXでも取り上げられ、著名な脳科学者の茂木健一郎氏からも「岐阜小の取組に大賛成！」とお墨付きをいただきました。その茂木先生からは「これからの家庭学習」としてマインクラフトで仮想社会を作る、魚の生息調査等で自然に触れる、地域のお年寄りに昔の話を聞くなどの「プロジェクト型学習」を提言されました。このことは、岐阜小学校の考える「夏休みの宝物」づくりの参考になると思われました。小学校の各発達段階（それぞれの時期）に興味あることにどっぷり浸かったり、関心をもったことにじっくりと取り組んだりする学習活動は、夏休みという長期休業期間にしかできないことでもあります。



また、自分で目標をつくり、その目標を達成するために計画を立て、計画に沿って実行するという「夏休み」は、主体性が問われる生活にもなります。「楽しいこと」を欲して受け身の姿勢でいるだけでは、「楽しい」と感じることはできません。「前向きに楽しむ」意志こそが、「楽しい夏休み」を創り出します。それでも、小学生の子どもに「自分で考えよう」だけでは無理があります。「家庭で過ごす夏休み」として、家族と時間を共有し、自分の居場所を確認しながら、豊かな家庭生活の構築を図って欲しいと願っています。“学習”は与えられるのではなく、自己選択・自己決定の「家庭学習」です。だからこそ、子どもたちが、各ご家庭で家族との「共創を楽しむ」夏休みとなることを、大いに期待しています。

※7月6日（木）には読売新聞東京本社から記者が来校し、夏休みに向けて「岐阜小学校の家庭学習」を取材されて行きました。25日（火）の読売新聞朝刊「暮らし」面に掲載される予定です。

学校だより

令和5年度 第4号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和5年6月30日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 「長良川と共に生きる」岐阜市民（岐阜小校区の住人）

校長 藤田 忠久

5月の土曜授業では、1、2年生の山麓周辺散策、3～6年生のコース別登山と「金華山」を体験的に学ぶ活動を行いました。6月からは、岐阜まち（岐阜市）のもう一つのシンボルである清流「長良川」の学習活動を、学年ごとに始めています。この学習は、総合的な学習の時間だけでなく社会科の時間にも行っています。6/16（金）には、4年生が社会科「くらしをささえる水」の発展学習として、ミネラルウォーター等の市販されている9種類のペットボトルの水と岐阜小学校の水道から汲んだ水を飲み比べました。その結果、清流長良川の上質な伏流水を利活用した岐阜市ならではの浄水場から流れてきた「水道水が一番美味しい」と思った子が半数以上いました。



そんな中、6/19（月）には「市内中学生の水難事故が発生」という大変ショックな報道がありました。一刻も早い回復を、心から祈念しております。

そこで、6/21の学校HPでは、次のようにお伝えさせていただきました。

毎年、川では溺れて亡くなる方も大勢います。川は、水着で気軽に遊ぶような場所ではありません。川は、私たちの身近にある最も危険な場所です。川に遊びに行く前に、川の危険性、水難事故に関する知識を身につける必要があります。川の中は自己責任の領域とも言え、自分の命は自分で守るしかありません。乾きやすい服装でライフジャケットとウォーターシューズをしっかりと着用したうえで、膝下より浅く、流れの緩いところで転倒に注意して遊ぶ。…この他は、命がけの無謀な行為です。川では「岩から飛び込んで溺死」「川を泳いで横断しようとして溺死」「溺れた子供を助けようとして溺死」といった水難事故が、昔から毎年ずっと繰り返されています。水難事故は、気持ちよく晴れた夏の日、周りで泳いでいる人もたくさんいるところでも静かに起きています。ウェブサイトやSNS上の偏った情報に踊らされることなく、無謀な行為は慎んで自分の命は自分で守ってください。一昨年度に作成した「岐阜小学校紹介DVD」には、次の台詞があります。「長良川は、日本三大清流の一つと呼ばれる『美しい水が自慢の川』です。川はとても楽しく面白いところですが、時として怖い場所になることもあります。そんな長良川で、安全な楽しみ方を身につける学習として、長良川を流れたり、長良川に飛び込んだりする『川遊び体験』を行っています。大勢の大人のボランティアの方々に見守られながら、川遊びを想定した形で靴や踵つきサンダルを履いたまま川に入ります。『長良川と共に生きる岐阜小校区』の住人として、体験を通して川についての正しい知識を身につけました。」岐阜小校区の住人は、河川の水難事故に遭ってはならないと思っています。学校、家庭、地域が一体となって、水難事故防止に努めていきたいと思えます。6/20の帰りの会では、特に「子どもだけで川遊びはしない」「水面は穏やかでも急に深くなる、急に流れが速くなる場所があるので気を付ける」「水泳危険区域の看板が設置されているところでは絶対に泳がない」の3点について、各学級で発達段階に応じて指導しました。各ご家庭におかれましても、同様にお子さんに声をかけていただきますようよろしくお願いいたします。

7月には5年生が、宿泊研修として行う「野外学習」は4年ぶり、その内容も令和元年度に初めて行った「長良川ゴムボート下り」の復活（再開）で、岐阜小学校の伝統にしていこうというものです。こうした体験的な学習活動の中でも、改めて「命を守る」指導を重視していきます。

学校だより

令和5年度 第3号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和5年5月31日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

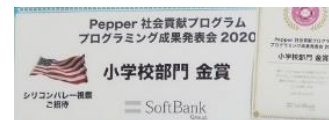
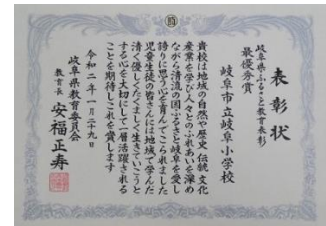
## 本来の「笑顔の眩しい日常」が戻りつつある岐阜小

校長 藤田 忠久

コロナの5類移行に伴い、5月8日には教職員はマスクを外して子どもたちを迎え、「今後はマスクなしを基本」という全校放送を行いました。顔全体を見合っただけの児童相互の交流や教育活動は、表情から相手の心情を察したり、表情によっても思いを伝えたりすることができ、学校現場では大きな意味を持ちます。マスクのない“弾けんばかりの笑顔”は楽しく明るい雰囲気醸成に役立ち、児童一人一人の気分も上がって学校生活全体に活気が満ち溢れてくるものと考えています。また、国語科や英語科をはじめとした音声言語（発音）や音楽科の歌唱・学級等の合唱の指導では、口の開け方や口の形も指導や評価の内容になります。さらに、熱中症予防の側面や運動時の心肺機能への影響からも、マスクの弊害が考えられます。こうした「マスクなしを基本」の意味や価値を十分に指導することで、子ども自身がTPOに応じて「マスクを外すこと」に抵抗がなくなっていくものと考えています。

ここで、私の1年目 2019年度（before コロナ）の学校だより「ふるさと大好き」に付けた各月の見出し（タイトル）を『回顧録』として紹介します。

- 4月号「平成から令和へ… “日本一” に挑む節目の12年目」（着任挨拶）
- 5月号『『百聞は一見に如かず』の続きから』（金華山登山）
- 6月号「一人はみんなのために みんなは一人のために」（修学旅行）
- 7月号「支える ともにつくる 挑戦 成長」（野外学習）
- 8月号「“前向き” な意志をもって『楽しむ』」（夏休みに向けて）
- 9月号『『日本一』 = “誰にも” “どこにも” 負けない『心意気』』（運動会）
- 10月号「“日本一” の学びに挑む『社会科全国大会』まで後1ヶ月!」（社会科研究）
- 11月号「岐阜小が社会科全国大会で『明るい光』に!」（全国大会前日）
- 12月号「岐阜小は『希望の光』」（大成功の全国大会は通過点）
- 1月号「岐阜小HPへのアクセス数」（岐阜小への関心と期待）
- 2月号「岐阜小が『岐阜県ふるさと教育表彰』初代最優秀賞を受賞!」（榮譽を自信に）
- 3月号「岐阜小は ONE TEAM」（成果：Pepper プログラミングコンテスト金賞で日本一）



奇しくも、7月号に「ともにつくる（共創）」、8月号に「楽しむ」という、今年度のキーワードが出てきます。令和元年度の成果を自信と誇りにして更なる高みを目指そうとした中で、コロナによる足踏みをしてしまった感は否めません。

5月には、児童や保護者サポーターと共に「金華山登山・山麓散策」を楽しみ、一部の児童生徒と地域は「金華地域市民体育祭」や「京町歩け歩け運動」を共に楽しむことができました。6月からは心身ともに「ふれあい」に溢れるコミュニティ・スクールとして「岐阜小ならではの教育活動による児童の成長」を実感できるよう、新たな「修学旅行」や「ふるさと学習（岐阜小MIRAI's）」をはじめ、共に創り出すことを楽しむ子どもたちにしていきたいと思います。



学校だより

令和5年度 第2号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和5年4月28日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 学校のホームページ（HP）をお楽しみください

校長 藤田 忠久

4月20日（木）～26日（水）には、新年度早々の「個人懇談」にご来校いただき、誠にありがとうございました。その中で、1年生の保護者の方から校長に「子どもが『学校が楽しい』と喜んで通っています。学校のHPも毎日ありがとうございます。学校での様子がよく分かり、不安が吹き飛んで小学校生活に安心感を持っています。」と、嬉しいお言葉をかけていただきました。

このことは、昨年度の5月号でも話題にしたことですが、令和2年3月以降、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて緊急事態宣言等が繰り返されるなど、学校運営や教育活動を見直さなければならなくなりました。地域に「開かれた学校」を特長に掲げて教育活動を実践してきた岐阜小学校にとって「閉ざさなければならない」状況は、学校経営の根底を覆しかねない事態となったのです。そこで放送集会としての生中継やビデオ放映、児童会（各委員会）による昼のTV放送等の「学校の教育活動」だけでなく、映像を駆使することは保護者や地域との交流という意味でも「学校を開くこと」に繋がらないかと考えました。学校HPでの写真画像の公開、「PTAでつくる岐阜小学校のページ」（動画サイト）へのVTRの提供など、静止画や動画の内容や利用方法を充実させることで、教育活動だけでなく、情報発信の内容や方法をより活性化させようと心がけました。令和3年11月からはCMSサーバのクラウド化とセキュリティ向上を図る目的で、市教委が管理している学校HPが新設され、そちらに移行されることになりました。それに伴って、1日1回を基本として更新していたHPを、学年別等のカテゴリーごとのブログとし、できるだけリアルタイムに複数回アップすることにしました。学校に来られる回数が限定されている中、児童を中心とした「学校の様子を知る機会」となるように留意した結果、嬉しい「声」としてお寄せいただけたり、アクセスの大きな「数」となって表れたりしたことは、本当に誇らしく感じています。

令和5年度が始業してからは、保護者向けに印刷・配布していた通信類を、学校HP上に添付していくことにした影響もあってのことだと思いますが、学校HPへのアクセス数は、始業日（7日）に驚異の4,973件をマークしたのを皮切りに、毎日1,000件を超えて、授業日の平均アクセス数は約2,500件となっています。

今年度は、4年ぶりに6年生が「入学式」に参列して校歌を歌い、代表児童が歓迎の挨拶をしました。同じく先週金曜日（4/21）の朝活動で行った「ようこそ1年生の会」も、4年ぶりに体育館に全校児童が参集しての児童集会となりました。自主的に集まった6年生の実行委員を中心に、過去の「ようこそ1年生の会」をもとに新たなシナリオを書いて、アレンジ版の「歓迎セレモニー（寸劇）」を創り、ステージ発表を全校「校歌」へと繋ぎ、見事に「児童集会」を成功させました。学校HPに加えて「PTAでつくる岐阜小学校のページ」にも動画をアップしています。



これからも、映像を駆使した情報発信にも努めていきますので、是非、お子さんと一緒に閲覧や視聴を楽しんでいってください。

学校だより

令和5年度 第1号  
岐阜市立岐阜小学校

# ふるさと大好き

令和4年4月7日  
岐阜市大工町1番地  
TEL 058-265-6388

## 進級・入学 おめでとうございます ～「共創を楽しむ」令和5年度～

校長 藤田 忠久

岐阜小学校で5年目の春を迎えることになり、大変嬉しく思っています。私が、再任用校長の継続を希望した理由は、心身ともに「ふれあい」に溢れるコミュニティ・スクールとして「岐阜小ならでは教育活動による児童の成長」を実感できるよう、校長の職務を全うしたいと思ったからです。コロナ収束を信じて「after コロナ」を見据え、岐阜小の特長を生かした学校経営を遂行する決意で臨んだ昨年度は、授業にコミュニティ・ティーチャーを招いたり、「サマースクール」や「ふれあいフェスタ」を再開したりするなど、地域との「ふれあい」を少しずつ戻すことができました。宿題を「家庭学習」に転換するなど、「自ら楽しむ」や「進んで学ぶ」主体性の育成を重視することにも着手しました。令和5年度は「ぎふ Mirai's」のパイロット校となって岐阜市全体をリードする立場になります。「ふるさと学習」のカリキュラム・マネジメントを推進するとともに、児童一人一人の学びの力マネを目指した実践を行いたいと考えています。

令和5年度は、新1年生の38人を加えて全校児童272人。全15学級でスタートします。教育目標『心豊かで自ら求め 学び合う 岐阜小の子ども』、合い言葉『ふるさと大好き』に向かって、児童と職員、総勢305人で「成長を実感できる岐阜小学校」を創っていきます。今年度のキーワードは「共創を楽しむ」としたいと思います。昨年度もお伝えしたことですが、「楽しもう」とする心の余裕を養うことが「人生を楽しむ」態度につながります。「楽しんでいる状態」になれば、自分の身の回りの出来事が楽しくなります。仕事や勉強が出来る人ほど心のゆとりがあり「楽しみ上手」です。その「楽しみ」を、仲間や先生と一緒に、対話を中心とした協働学習や思いやりのある日々の生活、岐阜小学校の文化や新たな伝統を、創り上げていくことに求める1年にしたいと考えています。

「ふるさと共創教育」をはじめ、児童自らが仲間と共に創り上げる体験を十分に楽しみながら、自信と誇りに繋げられるようにする「最終年度」とする覚悟です。岐阜小学校の教育活動、藤田の学校経営に、変わらぬご理解とご支援・ご協力をいただきますよう心よりお願いいたします。

after コロナが見えてきて、岐阜小学校本来の「ふれあいに溢れる教育活動」ができるようになると期待しています。だからこそ「共創を楽しむ」意識をもって、何事にも取り組んで欲しいと思います。令和5年度も「前向きに 直向きに」自分の生活や学習を「楽しむ」子どもたち一人一人であることを、心から願っています。

